

# なでしこ通信 第 51 号

《隔月発行》

## — 目 次 —

- ★第 1 回えひめ親守詩大会盛況のうちに終了  
高橋史朗教授の記念講演の要点 (大津寄章三)  
シンポジウムでの印象的なお話 (青井美智子)
- ★最近の男女共同参画関連ニュース  
「妻は家庭に」に賛成が反対上回る  
「夫婦別姓」容認は減少傾向
- ☆事務局から

## 第 1 回親守詩大会盛況のうちに終了 ■ □

早春のうららかな陽がそそぐ 2 月 23 日、松山市青少年センターは正午過ぎから多くの家族連れでにぎわいました。会場の大ホールに用意された椅子はたちまち埋まり、実行委員の腕章をつけた「めざす会」の会員や小学校の先生たちが急いで追加の席を用意するなど、あわただしい中で大会が始まりました。

青井美智子実行委員長挨拶の後、第 1 部の表彰式が行われ、松山市長賞をはじめとする各賞が担当者から授与されました。少しはにかみながら賞状や盾を受けとる児童、親に付き添われうれしそうに写真におさまる園児など、微笑ましい光景が印象的でした。

第 2 部の記念講演に立たれた高橋史朗・明星大教授は、松山からスタートした親守詩に関するエピソードを紹介されました。「親が変われば子が変わる」という原則とともに「子供が変われば親が変わる」ことに着目し、両者を結びつける手立てとして親守詩が提唱されたこと、またそれが全国に広がり、今年は東京で全国大会が開催されることなどが紹介されました。

高橋先生が強調されたことのひとつに、戦後という時代が日本の伝統的な価値観に基づいた育児・教育から断絶させられている、という点がありました。戦中の米国の日本研究に「日本人の受けている抑圧された教育が対外的に噴出し超国家主義や侵略戦争につながった」というものがあり、それに基づいて戦後の占領教育政策が実施されたというのです。

この誤解と偏見による（江藤淳氏の言葉によると「義眼をはめられた」）日本人の自己規制が、かつては「世界で一番子供が幸せにすごしている」と欧米から評価された日本の家庭を今日のような状況に陥らせているのではないか、というご指摘でした。

安倍首相のいう「日本を取り戻す」という意味は、決して過去をなつかしむ回顧でもノスタルジアでもなく、それは戦後失われた（あるいは外圧により忘れさせられた）日本人の美しい心や英知を再発見することではないか、という気がします。親守詩は親子の情愛という本来日本人が至上としていた価値を呼び覚ますきっかけであり、親の心を豊かに高めていくことこそ子供に心の根を張らせ、花や実をつけさせる何よりの贈り物になるのではないのでしょうか。

高橋先生は

「しろがねもくがねも玉もなにせむに まされる宝 子にしかめやも」  
という山上憶良の歌や、

「親思う心にまさる親ごころ 今日のおとずれ何ときくらむ」  
という吉田松陰が安政の大獄で処刑される際に詠んだ辞世の歌を引用され、親子がそれぞれの存在を何よりいとおしみ感謝するという情念こそ「絆」の中心価値に位置するものだ、と述べられました。

高橋先生はこの大会後イギリス・アメリカに渡られ、戦後日本の出発点となった占領文書のご研究に再度取り組まれるということです。今後しばらく親学について先生のお話を伺えないことは寂しい限りですが、この大会をきっかけとして県内各地で親学の勉強会を根付かせていきたいと思えます。

今回の大会では開催まで多くの試行錯誤はありましたが、予想を大きく上回る応募や参加があったこと、それが愛媛県内 20 すべての市町に及んだこと、また、塩崎恭久氏を始めとする国会議員や地方議員の方々のご参加につながったこと、愛媛銀行や青年会議所などの企業や団体との連携が実現したことなど、多くの成果にもつながりました。さらに衆知を集め、来年はより大きな実りをめざしていきたいと思えます。どうか会員の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

【文責 めざす会幹事 大津寄章三】

第3部のシンポジウムには3人の方が登壇されました。今回はその中のおひとり、三津浜の三葉幼稚園の古森宏子副園長のご発言を紹介いたします。

助手から始まり、45年間保育の現場にいます。昨年未まで親守詩というのがあることも知りませんでした。何でもチャンスがあれば子どもたちに与えてあげたいと思い、年長児145名分の応募用紙をいただきました。担任が、お父さんやお母さんに言いたいことがある？と聞いて、5-7-5の子供の部分をつか2つ書いて親守詩の説明文を持たせて帰しました。400人の園児の中で預かり保育が100名ほどいます。両親が働いている家庭が多いのです。親が土曜日もお休みでない、日曜日だけしか休めない、もしかしてそうした親子にとっていいチャンスになるかもしれないと思いました。お母さんが子供の話を聞いて、ここはこうだ、いや、待てよ、こうじゃないかと書き込んでくれる…。でも10人か20人じゃないかなと思いましたが、返ってきたのが110人余り！これを見まして感動しました。大勢の子供が幸せな時間を過ごしたに違いない。お父さんとお母さんが、頭を寄せ合ってわいわいと、自分の呼びかけたものに、7-7と書いてくれている。そういう時間はすごく幸せな時間だったろうな。とにかくこれは素敵なことだと思いながら全部読ませていただき送りました。結果は佳作も含めて20人あまりでした。これを残しておきたいなと思いましたが、大きくなって何かに迷ったときにこれを見たら、お父さんお母さんとこんな時間があつたんだと、迷うことがあっても戻ってくれるんじゃないか、そんなことを思いました。

私は、幼稚園が何かあつたときに帰ってくる場所になれないかと模索してまいりました。卒園してからも、お母さんが「先生困ったことがあるんじゃないけど」と訪ねて来られる、子供も行き詰まったときにもう1回幼稚園に戻りそこから立ち直って行って貰える、そういう幼稚園にしたいなと思ってきました。そうして私の園では、遊び中心で先生が子供たちの気持ちを分かりながら、「子供にとって」ということを考えながら保育していくということをやっと進めてきたわけです。その中で、4年生までは年に1回幼稚園に戻ってきます。6年生で1回戻ってきて、中学生になったらいろんなことがあるけどねという色んな話をしながら幼児に帰って話し合います。その結果なんですけれども、登校拒否になった子供のお母さんが「先生、子供が学校に行かないんですよ。どうしましょう。」「休ませて幼稚園に来ますか」。1日や2日幼稚園に来て、小さい子の世話をします。するとけろっとして学校に行くとか、家に閉じこもって学校に行かない子供がふと気がついたら幼稚園のアルバムを見ている、そのアルバムを見ながら、あるいはDVDを見ながら立ち直っていったということも保護者から聞きました。また、中学校で3年間1日も学校に行かなかった登校拒否の女の子がおりました。その子のお母さんから相談を受けまして「じゃあ、幼稚園に来て一緒に手伝って」ということで、1年間幼稚園を手伝って貰いました。今では定時制の高校に通っております。そういうふうに帰る場所があるということは大切

ですね。

今の子供たちの状況を見ますと、親がほんとに可愛がって可愛がって育てているんですけども子供は欲求不満。何故でしょう。可愛い可愛いで何でもしてあげるんですけども、子供というのは本当の愛情を感じるのは必要なときに叱ってもらえるときです。叱ってもらいたいのに叱ってもらえない。それから、話を聞いて欲しいのに聞いてもらえない。でも親は言うことは聞いてあげているでしょう、と先々やってしまっています。自分の子供を、私は自分の子供を信じなさいとよく言うんですけども、自分の子供を信じているからといって周りの子が全て悪くて自分の子供が何をしても正しい、そう思って怒ってくるお父さんも結構いらっしゃるわけです。子供にとって親が味方のように味方ではないというようなことがあると思います。幼児期から小さいながらもきちんと、よくないことはよくない、よいことはよいとはっきり子供に言える、それがほんとの親だと思います。社会に出たときに子供がどういう気持ちで、あるいは人からどういう目で見られて生きていくのかということを考えて欲しい。子供も親が3歳の自分にしっかり言ってくれたから今の自分がある、そういうことを心に残しながらいい大人になっていくんだらうと思います。

【文責 青井美智子】

## ◇◆最近の男女共同参画関連ニュース

### ■「妻は家庭」5割が賛成＝初の増加、反対上回る一内閣府調査

内閣府は12月15日（H24）、男女共同参画社会に関する世論調査結果を発表した。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という考え方について、賛成は51.6%、反対は45.1%だった。この質問を始めた1992年から前回調査の2009年まで一貫して賛成が減り、反対は増える傾向が続いていたが、今回初めて反転。賛成が反対を上回るのは、97年の調査以来15年ぶりとなった。若者の就職難や、女性にとり仕事と育児の両立が難しい環境にあることなどが背景にあるとみられる。（時事通信）

### ■夫婦別姓、賛否が拮抗＝容認論は減少傾向一内閣府調査

内閣府は16日、昨年12月に実施した「家族の法制に関する世論調査」の結果を発表した。それによると、選択的夫婦別姓制度の導入について、「法律を改正しても構わない」と容認する意見が35.5%、「改正の必要はない」との反対意見が36.4%で拮抗（きっこう）。容認論は2006年の前回、今回と2回続けて減少し、導入への機運が高まっていない現状が示された。

選択的夫婦別姓は、法制審議会が1996年に答申した民法改正案要綱に盛り込まれた。その後、自民党、民主党のいずれの政権でも改正を模索する動きはあったものの、反対意見

も根強く、法案提出には至らなかった。容認は 01 年の前々回調査では 42.1%で、反対の 29.9%を大きく上回っていたが、06 年の前回は容認 36.6%、反対 35.0%とほぼ肩を並べ、今回は逆転した。

別姓制度を容認すると答えた人のうち、自らが別姓を「希望する」としたのは 23.5%にとどまり、「希望しない」は 49.0%だった。（時事通信 平成 25 年 2 月 16 日(土)17 時 11 分配信)

## ◇◇◇ 事務局から ◇◇◇

◆第 1 回えひめ親守詩大会は「赤い羽根共同募金支援事業」として資金助成を受けました。また、愛媛銀行 CSR 倶楽部（中山紘治郎 運営委員長）から一金壱拾萬円の助成金を頂きました。◇この大会には 360 名の方がご参加下さいました。翌 24 日（日）午後 7 時からの愛媛 CATV のタウン広場でも紹介されました。

◆椿祭りでの啓発活動にご協力下さりありがとうございます。3 日間で署名 5200 筆（昨年 5357 筆）、募金 591,369 円（672,772 円）、ハンドタオル 239 枚（510 枚）、バッジ 460 個（0 個）の成果を収めました。寒冷のなかご苦労さまでございました。

◆「横田滋写真展～めぐみさん 家族と過ごした 13 年」：3 月 27 日（水）～4 月 2 日（火），いよてつ高島屋南館 2 階催会場。

「横田ご夫妻講演会」：3 月 27 日（水）午後 2 時～。7 階キャッスルルームにて。入場整理券が必要。応募者多数の場合は抽選。【あて先】〒790-8587 松山市湊町 5-1-1 いよてつ高島屋営業企画部「横田ご夫妻講演会係」。【締切】平成 25 年 3 月 13 日（水）必着。

【お問い合わせ】（089）948-2437

◆親学アドバイザー認定講座は、7 月 21 日（日）と 28 日（日）に決定しました。お問い合わせ・お申込は、親学推進協会（03-6821-5601）か当会（下記）まで。

◆会費の切れる方に払込取扱票を同封しております。引き続きご支援賜りますようお願い致します。

### 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール [michikoaoi25@yahoo.co.jp](mailto:michikoaoi25@yahoo.co.jp)（件名を明記してください）